

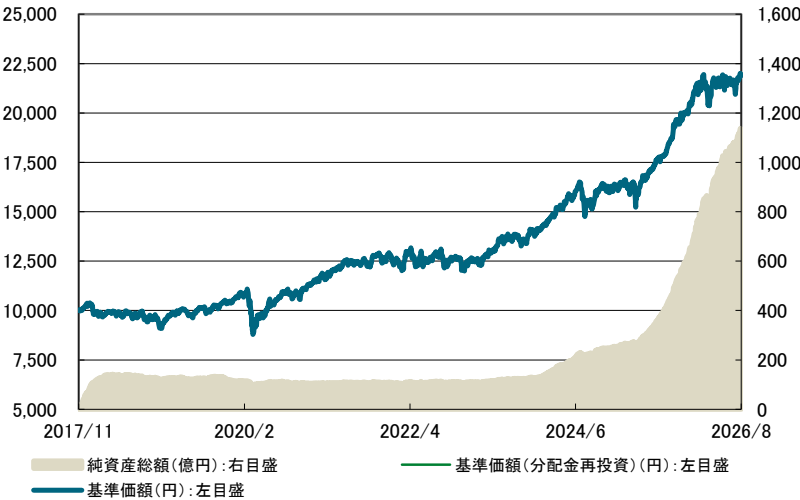


グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2017年11月30日
作成基準日：2026年8月31日

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	21,880 円	+ 581 円
純資産総額	1,133.52 億円	+ 64.15 億円

期間別騰落率

	騰落率
1ヵ月	2.73%
3ヵ月	0.41%
6ヵ月	0.13%
1年	22.28%
3年	57.82%
設定来	118.80%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2024年8月	2025年8月	2026年8月
分配金	0 円	0 円	0 円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2026年8月31日



マザーファンドの月間騰落率

マザーファンド	騰落率
国内株式インデックス マザーファンド	3.86%
外国株式インデックス マザーファンド	2.89%
新興国株式インデックス マザーファンド	9.41%
国内債券インデックス マザーファンド	-0.80%
外国債券インデックス マザーファンド	-0.04%
新興国債券インデックス マザーファンド	0.77%
J-REITインデックス マザーファンド	-2.91%
グローバルREITインデックス マザーファンド	-3.44%
ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)	8.18%

ファンドの運用状況

当月は、株式と金が堅調に推移したことなどから、基準価額は上昇しました。

株式は、各地域がそろって上昇しました。原油高が重しとなった空運株などは下落したものの、AI(人工知能)関連需要の拡大や総じて良好な企業業績などを背景に、ハイテク株が相場をけん引しました。なかでも、台湾や韓国の半導体関連株が好調で、新興国は大幅に上昇しました。

債券は、日本が小幅に下落し、先進国は概ね横ばい、新興国は小幅に上昇しました。日本では、インフレ懸念や日銀の追加利上げ観測などを背景に、利回りが上昇(価格は下落)しました。先進国でも利回りが上昇したものの、キャリー収益がその影響を概ね相殺しました。新興国は相対的に高い利回り水準がプラスに寄与しました。

REITは、債券の利回りの上昇が重しとなり、国内、先進国ともに下落しました。

金は、米ドル安や金ETFへの資金流入、中央銀行による継続的な買いなどを背景に、大きく上昇しました。

当月は、金への資産配分比率を上限の20%から中心値の15%へ引き下げました。今後も、地域別のGDP(国内総生産)総額の比率や市場環境の変化等に応じて決定した基本組入比率に則り、世界の株式、債券、REIT、金への分散投資を行い、中長期的な投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

マザーファンドの状況

マザーファンド	資産構成比	基本組入比率	差	基準価額騰落貢献額
国内株式インデックス マザーファンド	3.72%	3.75%	-0.03%	29 円
外国株式インデックス マザーファンド	20.74%	20.62%	0.12%	119 円
新興国株式インデックス マザーファンド	13.36%	13.13%	0.23%	236 円
国内債券インデックス マザーファンド	2.66%	3.75%	-1.09%	- 4 円
外国債券インデックス マザーファンド	20.60%	20.62%	-0.02%	- 2 円
新興国債券インデックス マザーファンド	13.06%	13.13%	-0.07%	20 円
J-REITインデックス マザーファンド	4.87%	5.00%	-0.13%	- 32 円
グローバルREITインデックス マザーファンド	4.87%	5.00%	-0.13%	- 37 円
ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)	15.13%	15.00%	0.13%	357 円
その他	0.99%	-	-	- 105 円
合計	100.00%	100.00%	-	581 円

※ 対純資産総額比です。

※ 各マザーファンドのベンチマークについては、13ページをご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

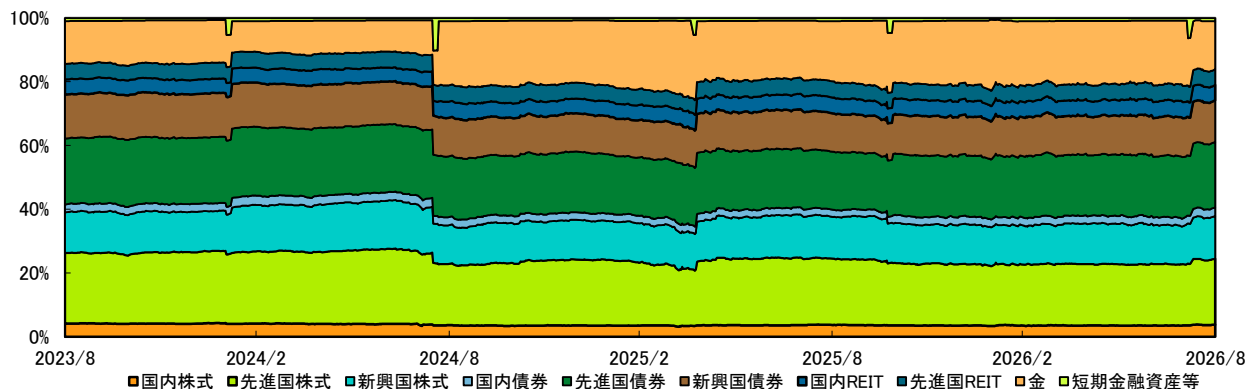
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2017年11月30日

作成基準日：2026年8月31日

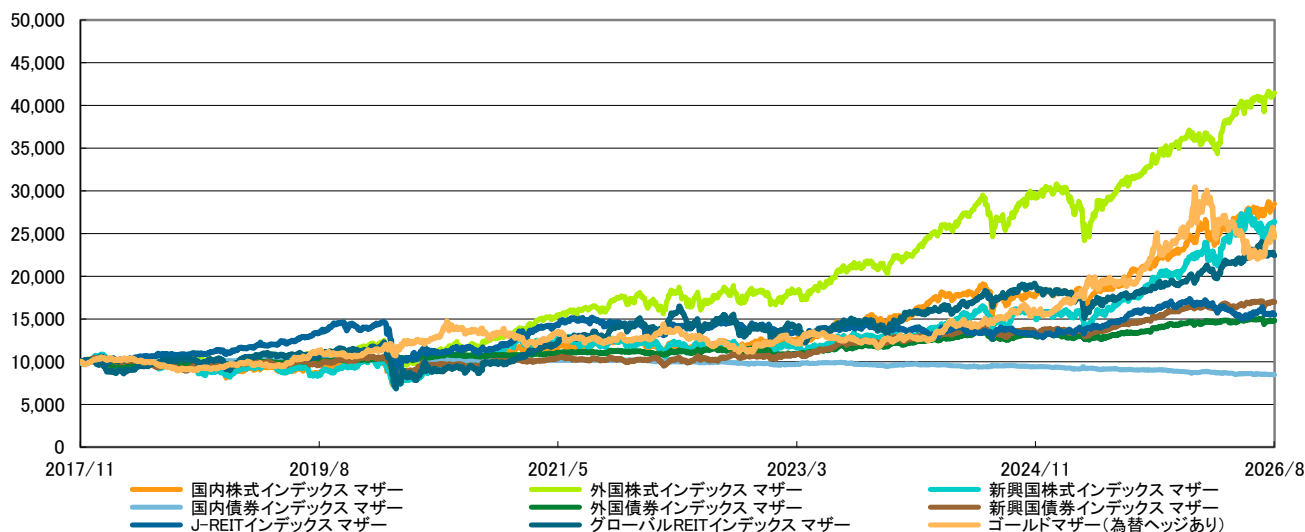


資産別組入比率の推移



※ 上記グラフは過去3年間の数値を使用して作成しています。

マザーファンドの基準価額の推移



※ 当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	米国	44.16%
2	日本	12.23%
3	中国	5.18%
4	台湾	3.64%
5	韓国	3.02%
6	インド	2.82%
7	英国	2.26%
8	フランス	2.06%
9	メキシコ	1.74%
10	ドイツ	1.64%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	米国ドル	44.38%
2	日本円	12.23%
3	ユーロ	7.96%
4	オフショア人民元	4.40%
5	台湾ドル	3.69%
6	韓国ウォン	3.02%
7	インド・ルピー	2.82%
8	香港ドル	2.37%
9	英国ポンド	2.18%
10	メキシコ・ペソ	1.74%

※ 対純資産総額比です。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2026年8月31日



国内株式インデックス マザーファンドの資産の状況

資産内容

株式	98.57%
株式先物取引	1.42%
短期金融資産等	0.02%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	電気機器	20.63%	20.62%
2	銀行業	12.61%	12.60%
3	卸売業	7.41%	7.41%
4	情報・通信業	6.31%	6.32%
5	機械	5.73%	5.73%
6	輸送用機器	5.10%	5.10%
7	化学	4.49%	4.49%
8	サービス業	4.39%	4.40%
9	小売業	3.77%	3.77%
10	保険業	3.45%	3.45%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.89%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	2.64%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.55%
4	日立製作所	電気機器	2.36%
5	ソニーグループ	電気機器	2.29%
6	リクルートホールディングス	サービス業	2.22%
7	東京エレクトロン	電気機器	2.02%
8	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.01%
9	アドバンテスト	電気機器	1.73%
10	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.70%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,626

市場動向

国内株式市場は上昇しました。月前半は、海外ハイテク株の良好な決算内容を受けて、AI(人工知能)・半導体関連銘柄を中心に買いが優勢となりました。特に、米国の雇用統計やCPI(消費者物価指数)の低調な結果を受けて米早期利上げ観測が後退したことが上昇要因となりました。月後半は、中東情勢の先行き不透明感が改めて意識され、原油価格が上昇に転じたことや財政不安などにより、世界的に長期金利が上昇傾向となったことからハイテク関連株が軟調となる一方で、金融株が堅調となり、底堅く推移しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2026年8月31日

外国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

資産内容

株式	96.12%
株式先物取引	3.90%
短期金融資産等	-0.02%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	76.83%	76.56%
2	英国	3.81%	3.75%
3	カナダ	3.67%	3.67%
4	フランス	2.46%	2.50%
5	スイス	2.40%	2.39%
6	ドイツ	2.35%	2.34%
7	オーストラリア	1.72%	1.73%
8	オランダ	1.42%	1.47%
9	スペイン	1.04%	1.05%
10	イタリア	0.87%	0.87%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	半導体・半導体製造装置	13.72%	13.89%
2	ソフトウェア・サービス	8.58%	8.59%
3	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	8.07%	8.07%
4	資本財	7.96%	7.88%
5	銀行	7.19%	7.20%
6	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	6.85%	6.83%
7	メディア・娯楽	6.84%	6.75%
8	金融サービス	6.51%	6.48%
9	一般消費財・サービス流通・小売り	4.62%	4.56%
10	エネルギー	4.20%	4.28%

※ 対現物株式構成比です。

※ 業種はGICS分類(産業グループ)によるものです。GICSに関する知的所有権等はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	NVIDIA CORP	米国	5.56%
2	APPLE INC	米国	5.20%
3	MICROSOFT CORP	米国	4.01%
4	AMAZON.COM	米国	2.86%
5	ALPHABET INC-CL A	米国	2.24%
6	BROADCOM INC	米国	1.84%
7	ALPHABET INC-CL C	米国	1.76%
8	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	1.41%
9	MICRON TECHNOLOGY	米国	1.17%
10	TESLA INC	米国	1.09%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,115

市場動向

米国株式市場は上昇しました。月前半は、ベッセント米財務長官がホルムズ海峡開放に向けてイランと合意できるとの見通しを示したことなどから、中東情勢を巡る懸念が後退しました。また、軟調な米経済指標を受けて、早期利上げ観測が後退し、上昇しました。月後半は、米国とイランによる協議の不透明感が強まり、原油高を受けたインフレ懸念の再燃により売りが優勢となりました。

欧州株式市場は上昇しました。月前半は、米国とイランの交渉進展期待から原油価格が下落したことを背景に米早期利上げ観測が後退したことや、好調な企業決算を好感して、買いが優勢となりました。月後半は、中東情勢の不透明感に伴う原油価格の高騰を受けて、利上げ観測が高まり下落したものの、月間では上昇しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2026年8月31日

新興国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

資産内容

株式	94.06%
株式先物取引	6.01%
短期金融資産等	-0.08%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	台湾	25.65%
2	韓国	19.35%
3	インド	10.65%
4	ケイマン島	10.48%
5	中国	8.53%
6	ブラジル	3.12%
7	南アフリカ	2.57%
8	サウジアラビア	2.36%
9	メキシコ	1.58%
10	アラブ首長国連邦	1.10%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	台湾ドル	25.99%
2	韓国ウォン	19.35%
3	香港ドル	15.72%
4	インド・ルピー	10.65%
5	ブラジル・レアル	3.12%
6	南アフリカ・ランド	3.09%
7	オフショア人民元	3.02%
8	サウジアラビア・リヤル	2.36%
9	米国ドル	1.65%
10	メキシコ・ペソ	1.58%

※ 対純資産総額比です。

※ マザーファンドを通じ、新興国の企業が米ドル建て等で発行する証券（預託証券（DR））にも投資します。したがって、通貨構成比は国・地域別構成比と異なることがあります。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	半導体・半導体製造装置	24.66%	24.67%
2	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	15.76%	15.77%
3	銀行	14.48%	14.67%
4	素材	6.39%	6.30%
5	資本財	5.19%	5.15%
6	メディア・娯楽	4.11%	4.12%
7	一般消費財・サービス流通・小売り	3.62%	3.61%
8	エネルギー	3.40%	3.44%
9	保険	2.63%	2.66%
10	自動車・自動車部品	2.51%	2.50%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	台湾	14.36%
2	SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	韓国	6.65%
3	SK HYNIX INC	韓国	5.05%
4	TENCENT HOLDINGS LTD	ケイマン島	2.72%
5	ALIBABA GROUP HOLDING LTD	ケイマン島	1.85%
6	MEDIATEK INC	台湾	1.39%
7	DELTA ELECTRONICS INC	台湾	0.86%
8	SAMSUNG ELECTRONICS-PREF	韓国	0.84%
9	CHINA CONSTRUCTION BANK-H	中国	0.75%
10	HON HAI PRECISION INDUSTRY	台湾	0.74%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,033

市場動向

香港株式市場の中国株は下落しました。米早期利上げ観測が後退したことから買いが優勢となる場面もありましたが、中東情勢や中国景気などの先行き不透明感から下落しました。

韓国株式市場は上昇しました。前半半は、米半導体株高の流れを受けてハイテク関連株の買いが優勢となり、上昇しました。その後、中東情勢の悪化懸念などが重石となり下落する場面もありましたが、月末にかけて米ハイテク株の好業績見通しを好感して底堅く推移しました。

インド株式市場は下落しました。米利上げ観測の後退を好感して一時上昇したものの、中東情勢の先行き不透明感に伴う原油高を受けて、インフレ加速を警戒した売りが優勢となりました。

台湾株式市場は上昇しました。米国や韓国のハイテク株高を受けて、主力の半導体関連銘柄の買いが優勢となりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2017年11月30日

作成基準日：2026年8月31日



国内債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

債券	99.95%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	0.05%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

	ファンド	ベンチマーク
残存年数	10.43 年	10.30 年
修正デュレーション	7.59	7.44
最終利回り	2.63 %	2.62 %
銘柄数	1,167	－

※ 修正デュレーションとは債券価格の金利変動に対する感応度（変動率）を表しており、この値が大きいほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※ 利回り（税引前）は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

種類別構成比

種類	ファンド	ベンチマーク
国債	85.02%	85.10%
地方債	5.90%	5.87%
政府保証債	1.21%	1.20%
金融債	0.29%	0.29%
事業債	6.36%	6.20%
円建外債	0.27%	0.31%
MBS	0.95%	0.98%
ABS	0.01%	0.05%

※ 対現物債券構成比です。

残存期間別構成比

残存年数	ファンド	ベンチマーク
1年未満	0.00%	0.00%
1年以上3年未満	21.17%	22.93%
3年以上7年未満	32.12%	31.27%
7年以上10年未満	17.96%	17.06%
10年以上	28.74%	28.74%

※ 対現物債券構成比です。

市場動向

国内債券市場では10年国債利回りが2.940%に上昇（価格は下落）しました。7月末から8月月初に日米協調円買い介入が行われ、その後ベッセント米財務長官が介入を支持し「政策と経済の基礎条件による対応が必要」と発言した旨が報道され、9月の利上げを織り込む動きが広がりました。また、2027年度予算の概算要求規模が膨らみそうだとの見方が財政運営の先行きに対する不安感につながりました。加えて、米・イランの軍事的緊張の再燃による原油高や円安を背景にした輸入インフレへの警戒感も、金利上昇要因になりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2026年8月31日



外国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

債券	98.62%
債券先物取引	0.74%
短期金融資産等	0.64%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

	ファンド	ベンチマーク
直接利回り	3.05 %	－
最終利回り	3.83 %	3.90 %
残存年数	8.83 年	8.85 年
修正デュレーション	6.05	6.11
銘柄数	1,033	－

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	44.49%	44.10%
2	中国	12.95%	13.01%
3	フランス	7.02%	7.07%
4	イタリア	6.39%	6.27%
5	英国	5.78%	5.75%
6	ドイツ	5.60%	5.56%
7	スペイン	4.06%	4.06%
8	カナダ	2.13%	2.11%
9	ベルギー	1.44%	1.44%
10	オーストラリア	1.32%	1.36%

※ 対現物債券構成比です。

組入上位10通貨

	通貨	ファンド	ベンチマーク
1	米国ドル	44.49%	44.10%
2	ユーロ	28.29%	28.24%
3	オフショア人民元	12.95%	13.01%
4	英国ポンド	5.78%	5.75%
5	カナダ・ドル	2.13%	2.11%
6	オーストラリア・ドル	1.32%	1.36%
7	韓国ウォン	1.29%	1.59%
8	メキシコ・ペソ	0.90%	0.91%
9	ポーランド・ズロチ	0.70%	0.73%
10	マレーシア・リンギット	0.50%	0.49%

※ 対現物債券構成比です。
※ ベンチマークは中国・元の構成比になります。

市場動向

米国10年国債利回りは、ほぼ横ばいでした。7月雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想に反して減少となり、また、7月CPI(消費者物価指数)の前年同月比の伸び率鈍化など、軟調な経済指標の結果が金利低下要因になりました。月末にはウォーシュFRB(米連邦準備理事会)議長が「基調的なインフレ率が2%目標に向けて鈍化しているとの確信が持てなければFRBにはまだやるべきことがある」と発言し、インフレへの警戒姿勢と追加の金融引き締めの可能性が示唆されたを受け止められ、利回りは上昇(価格は下落)しました。ドイツ10年国債利回りは、3.324%に上昇しました。原油高によるインフレ圧力が再認識されたことや米金利の上昇が波及したほか、ECB(欧州中央銀行)による早期利上げへの警戒感が引き続き意識され、金利上昇要因になりました。米ドル/円相場は、円高・米ドル安となりました。月初は、7月末から8月初に日米当局が協調円買い介入を実施したことで、急速に円高が進みました。その後、原油価格の上昇や日本の財政悪化懸念が根強い円安圧力となる一方、追加介入への警戒感から米ドルの上値は抑制されました。月末には、ウォーシュFRB議長の発言を受けて米国の早期利上げ観測が高まり、再度160円台まで円安が進みましたが、前月末比では円高・米ドル安となりました。ユーロ/円相場は、小幅な円安・ユーロ高となりました。月前半は7月末から8月初の日米協調円買い介入を受け大幅に円高・ユーロ安となりましたが、その後はECBの早期利上げ観測や根強い円安圧力を背景にユーロは対円で上昇しました。月末はウォーシュFRB議長の発言の影響を受けて、円、ユーロともに米ドルに対して売られ、ユーロ/円は横ばいで推移しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2026年8月31日



新興国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

特性値

債券	97.49%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	2.51%
合 計	100.00%

直接利回り	5.74 %
最終利回り	6.55 %
残存年数	7.65 年
修正デュレーション	5.22
銘柄数	383

※ 対純資産総額比です。

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

組入上位10カ国・地域

組入上位10通貨

	国・地域	比率
1	メキシコ	9.97%
2	インド	9.78%
3	中国	9.72%
4	マレーシア	9.24%
5	インドネシア	8.99%
6	ポーランド	8.34%
7	タイ	7.66%
8	南アフリカ	7.25%
9	ブラジル	6.48%
10	コロンビア	5.06%

	通貨	比率
1	メキシコ・ペソ	9.97%
2	インド・ルピー	9.78%
3	オフショア人民元	9.72%
4	マレーシア・リンギット	9.24%
5	インドネシア・ルピア	8.99%
6	ポーランド・ズロチ	8.34%
7	タイ・バーツ	7.66%
8	南アフリカ・ランド	7.25%
9	ブラジル・レアル	6.48%
10	コロンビア・ペソ	5.06%

※ 対純資産総額比です。

※ 対純資産総額比です。

市場動向

新興国通貨は対円でまちまちな動きとなりました。政策金利が6.50%に据え置かれ、追加利下げを急がない姿勢と受け止められたメキシコ・ペソ、そのほかインドネシア・ルピアや南アフリカ・ランド、マレーシア・リンギットなどは対円で上昇しました。一方、ブラジル・レアルは、金融面の先行き不透明感から下落しました。コロンビア・ペソも財政運営への懸念が重石となりました。新興国債券利回りはまちまちな動きとなりました。政策金利を0.25%引き下げたブラジルや、金融政策運営や国内政策に対する投資家の信頼感が高まったインドネシアなどでは、利回りが低下(価格は上昇)しました。トルコでも利回りは低下しましたが、依然高水準にあり、高いインフレ率を背景とした金融引き締めめ長期化観測が根強く残りました。経済指標の改善や財政悪化懸念が見られたコロンビアや、内需拡大を背景に良好な経済指標が示されたペルーなどでは、利回りが上昇しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日
作成基準日 : 2026年8月31日



J-REITインデックス マザーファンドの資産の状況

資産内容

J-REIT	97.04%
J-REIT先物取引	2.94%
短期金融資産等	0.01%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

予想配当利回り	5.05%
銘柄数	58

※ 予想配当利回り(税引前)は、各種情報を基に組入銘柄の予想配当利回りを加重平均して算出した値(対純資産総額比)です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

用途別組入状況

	用途	比率
1	商業・物流等	49.73%
2	オフィス	38.18%
3	住宅	12.09%

※ 対現物REIT構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	用途	比率
1	日本ビルファンド投資法人	オフィス	7.06%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	オフィス	5.73%
3	日本都市ファンド投資法人	商業・物流等	5.42%
4	野村不動産マスターファンド投資法人	商業・物流等	4.33%
5	GLP投資法人	商業・物流等	4.29%
6	日本プロロジスリート投資法人	商業・物流等	4.15%
7	KDX不動産投資法人	オフィス	4.02%
8	オリックス不動産投資法人	オフィス	3.59%
9	大和ハウスリート投資法人	商業・物流等	3.36%
10	ジャパン・ホテル・リート投資法人	商業・物流等	3.28%

※ 対純資産総額比です。

市場動向

J-REIT市場は下落しました。
月上旬は、軟調に推移していたAI(人工知能)関連銘柄が反発したに加え、日銀の早期利上げ観測の高まりや国内長期金利の上昇を受け、J-REIT市場からの資金流出が優勢となり、下落しました。月中旬以降は、東京都心のオフィス賃貸市況の改善や配当利回り面での割安感が意識されたことから底堅く推移する場面も見られましたが、日銀の早期利上げ観測を背景に国内長期金利の高止まりが続くなか、買いは限定的となり、東証REIT指数は月末にかけて1,800ポイントを割り込む展開となりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2026年8月31日



グローバルREITインデックス マザーファンドの資産の状況

資産内容

グローバルREIT	99.20%
グローバルREIT先物取引	0.83%
短期金融資産等	-0.04%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	米国	79.19%
2	オーストラリア	6.30%
3	英国	4.36%
4	シンガポール	3.06%
5	フランス	2.03%
6	カナダ	1.12%
7	ベルギー	1.05%
8	香港	0.88%
9	スペイン	0.52%
10	韓国	0.18%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	米国ドル	79.28%
2	オーストラリア・ドル	6.30%
3	英国ポンド	4.36%
4	ユーロ	3.87%
5	シンガポール・ドル	2.93%
6	カナダ・ドル	1.12%
7	香港ドル	0.88%
8	韓国ウォン	0.18%
9	イスラエル・シェケル	0.17%
10	ニュージーランド・ドル	0.11%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	WELLTOWER INC	米国	9.80%
2	PROLOGIS INC	米国	7.78%
3	EQUINIX INC	米国	6.01%
4	SIMON PROPERTY GROUP	米国	4.06%
5	DIGITAL REALTY TRUST INC	米国	3.76%
6	REALTY INCOME CORP	米国	3.37%
7	PUBLIC STORAGE	米国	3.07%
8	VIVMARK RESIDENTIAL	米国	2.79%
9	VENTAS INC	米国	2.59%
10	GOODMAN GROUP	オーストラリア	2.39%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 272

市場動向

海外(先進国)のREIT市場は下落しました。

米国REIT市場は下落しました。月前半は、原油価格上昇に伴う利上げ予想の高まりを背景に下落した後、物価指標の伸び率鈍化を受けて早期利上げ観測が後退したことなどから持ち直しました。月後半は、根強いインフレや財政悪化に対する懸念に加えて、AI(人工知能)関連企業の積極的な資金調達などを背景とする長期金利の上昇を受けて、再び下落しました。

オーストラリアREIT市場は下落しました。月前半は、ブロックRBA(オーストラリア準備銀行)総裁が、高止まりするインフレ率を踏まえて今後の利上げの可能性に言及したことなどから、長期金利が上昇し、REIT市場は下落しました。月後半も、世界的に長期金利に上昇圧力がかかるなか、REIT市場は下落基調となりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2026年8月31日



ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)の資産の状況

資産内容

上場投資信託	99.68%
短期金融資産等	0.32%
合 計	100.00%

為替ヘッジ比率	99.76 %
---------	---------

発行体	通貨	比率
SPDR GOLD MINISHARES TRUST	米国ドル	60.64%
ISHARES GOLD TRUST MICRO	米国ドル	39.04%
-	-	-
-	-	-
-	-	-
合 計	-	99.68%

※ 対純資産総額比です。

市場動向

米ドル建てLBMA金価格は上昇しました。

月前半は、米国とイランの交渉進展期待によるインフレ懸念の緩和に加え、軟調な米雇用統計等を踏まえたFRB(米連邦準備理事会)による早期利上げ観測の後退を受けて、金価格は上昇基調で推移しました。月後半は、米財務省が流動性支援のために国債買い戻し額の増額を表明したことを受けて米国債利回りが低下したことや、ドルへの信認低下懸念の高まりから、金価格は上昇幅を拡大しました。月末にかけては、堅調な米PCE(個人消費支出)を受けたドル高などから、LBMA金価格は上昇幅を縮小しました。なお、その後のウォーシュFRB議長によるインフレ高止まりを懸念する発言を受けた米国債利回りの上昇によって、金相場はさらに下落する展開となりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2026年8月31日



マザーファンドのベンチマーク

※ 各マザーファンドのベンチマークは、以下の通りです。

マザーファンド	ベンチマーク
国内株式インデックス マザーファンド	【TOPIX(東証株価指数)(配当込み)】 TOPIX(東証株価指数)とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)(以下、「配当込みTOPIX」という。)の指数値及び配当込みTOPIXに係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
外国株式インデックス マザーファンド	【MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)】 MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。 MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.はMSCIコクサイ・インデックスの内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
新興国株式インデックス マザーファンド	【MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)】 MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。 MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.はMSCIエマージング・マーケット・インデックスの内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
国内債券インデックス マザーファンド	【NOMURA-BPI総合】 NOMURA-BPI総合とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する、日本の公募債券流通市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された債券ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数の知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
外国債券インデックス マザーファンド	【FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)】 FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏又は遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債券インデックス マザーファンド	【JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円換算ベース)】 JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドとは、新興国の現地通貨建債券市場の動向を測るためにJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが開発した、時価総額ベースの債券インデックスです。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算したものです。同指数に関する商標・著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。
J-REITインデックス マザーファンド	【東証REIT指数(配当込み)】 東証REIT指数とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、東京証券取引所に上場しているREIT(不動産投資信託証券)全銘柄を対象とした時価総額加重型の指数です。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。同指数の指数値及び同指数に係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
グローバルREITインデックス マザーファンド	【S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円ベース)】 S&P先進国REIT指数(以下「当インデックス」とは、S&P Dow Jones Indices LLC(以下「SPDJ」)が公表する指数で、世界主要国に上場するREIT(不動産投資信託証券)及び同様の制度に基づく銘柄の浮動株修正時価総額に基づいて算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。 当インデックスは、S&P Globalの一部門であるSPDJIの商品であり、これを利用するライセンスが当社に付与されています。Standard & Poor's[®]及びS&P[®]は、S&P Globalの一部門であるStandard & Poor's Financial Services LLC(以下「S&P」)の登録商標で、Dow Jones[®]はDow Jones Trademark Holdings LLC(以下「Dow Jones」)の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが当社にそれぞれ付与されています。当ファンドは、SPDJ、Dow Jones、S&P又はそれぞれの関連会社によって支援、保証、販売、又は販売促進されているものではなく、これら関係者のいずれも、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、当インデックスの誤り、欠落、又は中断に対し一切の責任も負いません。
ゴールドマザーファンド (為替ヘッジあり)	【LBMA金価格(円ヘッジベース)】 LBMA金価格とは、正式名称はLBMA Gold Price PMといい、ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッド(ICE Benchmark Administration Limited)によってロンドン時間の午後1時に公表される1トロイオンスあたりの金現物価格(米ドル建て)を指します。なお、LBMAは、ロンドン貴金属市場協会(London Bullion Market Association)の略称です。「円ヘッジベース」は、対円の為替ヘッジを考慮して当社が独自に算出した指数です。 ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッドは、LBMA金価格及びLBMA金価格が示す、あらゆる特定の日、特定の時点における数値により生じた結果について、明示的又は暗示的に、何ら保証するものではありません。ICEベンチマーク・アドミニストレーション・リミテッドは、当ファンドに関する商品性や特定目的への適合性について、明示的又は暗示的に、何ら保証するものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2026年8月31日



ファンドの特色

1. 世界の幅広い資産に分散投資し、ファミリーファンド方式で運用を行います。
2. 世界経済全体の発展を享受します。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、**投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【為替変動リスク】

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、「ゴールドマザーファンド(為替ヘッジあり)」における外貨建資産については、原則として為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図ることを基本としますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【商品(コモディティ)の価格変動リスク】

商品の価格は、需給関係や為替、金利変動等の様々な要因により大きく変動します。需給関係は、天候、作況、生産国(産出国)の政治、経済、社会情勢の変化等の影響を大きく受けます。商品価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【リート価格変動リスク】

リーートの価格は、不動産市況(不動産稼働率、賃貸料、不動産価格等)、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制等の変更、災害等の要因により変動します。また、リート及びリーートの運用会社の業績、財務状況の変化等により価格が変動し、基準価額の変動要因となります。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【カントリーリスク】

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。また、新興国への投資は先進国に比べ、上記のリスクが高まる可能性があります。

【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【有価証券の貸付等に係るリスク】

有価証券の貸付等においては、取引相手先の倒産などにより決済が不履行となるリスクがあります。貸付契約が不履行となった場合、担保金による有価証券の買戻しの際、時価変動の影響から損失を被り、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2026年8月31日



投資リスク

《その他の留意点》

- ファンドは中長期的な成長を目指して、市場環境等の変化や見通しに応じた運用を行うため、委託会社の判断で投資対象とする資産の投資割合を変更します。この投資割合の変更が、ファンドの収益の増加に寄与する場合がありますが、収益の減少や損失の発生要因となる場合があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2026年8月31日

お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額とします。
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金 … 申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。
- 申込受付不可日
- ニューヨーク証券取引所の休業日
 - ロンドン証券取引所の休業日
 - ニューヨークの銀行休業日
 - ロンドンの銀行休業日
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付中止及び取消し … 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、投資対象国における非常事態による市場閉鎖、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
- 信託期間 … 無期限(2017年11月30日設定)
- 繰上償還 … 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。
- ・受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合
 - ・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合
 - ・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎年8月20日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。
ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.1%**の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。

純資産総額に対して**年率0.605%(税抜0.55%)**を乗じて得た額

(有価証券の貸付の指図を行った場合)

ファンドの品賃料及びマザーファンドの品賃料のうちファンドに属するとみなした額に**50%未満の率^{*}**を乗じて得た額

※ 2026年5月20日現在、合計で49.5%(税抜45%)以内とし、その配分は委託会社29.7%(税抜27%)、受託会社19.8%(税抜18%)です。(品賃料はファンドの収益として計上され、その一部を委託会社と受託会社が信託報酬として受け取るものです。)

■ その他の費用・手数料

有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、マザーファンドの解約に伴う信託財産留保額等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

また、上場投資信託証券は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託証券の費用は表示しておりません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル経済コア

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年11月30日

作成基準日 : 2026年8月31日

委託会社・その他の関係法人の概要

- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社（ファンドの運用の指図を行う者）
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第347号
 加入協会：一般社団法人資産運用業協会
 ホームページ： <https://www.smtam.jp/>
 フリーダイヤル：0120-668001 受付時間 9:00～17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社（ファンドの財産の保管及び管理を行う者）

SMTAM投信関連情報サービス

お客様が指定されたファンドに関する情報（基準価額、レポート）や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。

※LINEご利用設定は、お客様のご判断をお願いします。
 ※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

販売会社

商号等	登録番号	登録金融機関	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）※	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）※	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○	○		
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○
PayPay証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2883号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
moomoo証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3335号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※ ネット専用のお取り扱いとなります。

- ・ お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ・ 販売会社は今後変更となる場合があります。

<本資料のお取り扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。